

番号	コード						名称	所在地	年代		由緒由来の概要	資料名
	町名	有形・無形	現存・非現存	大分類	中分類	和暦			西暦			
58	3 門別町	1 有形	2 非現存	1 産業	7 道路	佐留太橋(現沙流川橋)	富川	明治26 (創建)	1893	門別町最初の大橋。苫小牧からの国道が高江(新冠)までに延長された際に架橋。後に門別町最大の橋である沙流川橋となる。	新門別町史中巻	
59	3 門別町	1 有形	2 非現存	1 産業	8 その他陸運	佐留太駅通所	富川	明治10	1877	19世紀の初頭、江戸幕府が蝦夷地を直轄した時代に、会所や運上屋が整備され、運送、人馬継立、宿泊などの駅通業務を行ってきたが、開拓使時代以降にも駅通所が設けられ、取扱人をおき、手当てと官馬を支給し、旅行者や開拓移民の拠点として、また、各地域間の通信業務を担当してきた。佐留太駅通所は、門別にあったものを移転して設立され、建物は波恵村にあった官舎を移築した。駅馬は明治11(1878)に新冠牧場から11頭、白老から60頭を導入した。	新門別町史中巻	
60	3 門別町	1 有形	2 非現存	1 産業	8 その他陸運	門別駅通所	門別	不明	不明	19世紀の初頭、江戸幕府が蝦夷地を直轄した時代に、会所や運上屋が整備され、運送、人馬継立、宿泊などの駅通業務を行ってきたが、開拓使時代以降にも駅通所が設けられ、取扱人をおき、手当てと官馬を支給し、旅行者や開拓移民の拠点として、また、各地域間の通信業務を担当してきた。門別駅通所は、明治3(1870)にそれまで経営していた稲田富右衛門から当時日高地方を治めていた仙台藩に引き継がれ、開拓使直轄となった。明治5(1872)に豊郷に移されたが、明治7(1874)には門別に戻される。明治8(1875)には飯田信三が、明治9(1876)には足田長次郎が駅通取扱を命ぜられたが、明治10(1877)に廃止され、新たに佐留太村に駅を設置した。	新門別町史中巻	
61	3 門別町	1 有形	2 非現存	1 産業	9 水運・海運	沙流浦役場	不明	明治10	1877	停泊する船に関する庶務、難破船の取扱いなどを掌るために設置された。	新門別町史中巻	
62	3 門別町	1 有形	1 現存	2 宗教	10 寺社等	大神神社	富川	明治8	1875	東蝦夷地の防衛を固めるために幕府から警備を命ぜられた仙台藩士三好監物が、白老に置いた元陣屋の守護神として塩竈神社の祭神を勧請して奉ったものを、監物の次男三好清篤が門別に移住した際に白老から遷した神社。	新門別町史中巻	
63	3 門別町	1 有形	1 現存	2 宗教	10 寺社等	日高寺	富川東	明治43	1910	真言宗、琢磨有文が開基した佐留太説教所が始まりで、大正9(1920)に公称が認可される。	日高寺八十八力所霊場調査報告書	
64	3 門別町	1 有形	1 現存	2 宗教	10 寺社等	日高寺八十八力所霊場	富川東	大正15	1926	檀家等が冥加金を集めて、94体の仏像を安置したものの。	日高寺八十八力所霊場調査報告書	
65	3 門別町	1 有形	1 現存	2 宗教	10 寺社等	門別稲荷神社	本町	江戸後期	—	安政4(1857)、長岡藩士が沙流会所を訪れた記録に記載され、享和3(1803)にシノダイにあった義経祠を移したともいわれるが創建の年代は不明で、寛政初期ではないかとも言われている。残されている扁額「稲荷神社」が文久4(1863)に奉納されている。慶応4(1867)、沙流場所請負人山田文衛門が社殿を改築。	新門別町史中巻、門別町開基120記念誌、百年記念写真誌	
66	3 門別町	1 有形	1 現存	2 宗教	10 寺社等	門別稲荷神社社殿	本町	慶応3	1867	有形文化財。沙流場所請負人山田文衛門が造営。内地から帆船で鳥居を運搬し、用材はすべて松前から運搬した。	新門別町史中巻	
67	3 門別町	1 有形	1 現存	2 宗教	10 寺社等	門別稲荷神社二の鳥居	本町	慶応4	1868	有形文化財。沙流場所請負人山田文衛門らが願主。	新門別町史中巻	
68	3 門別町	1 有形	2 非現存	2 宗教	10 寺社等	義経祠跡	シノダイ	享和元	1801	近藤重蔵が建立し、義経像を安置していた。享和2(1802)門別稲荷神社に移す。	新門別町史中巻	
69	3 門別町	1 有形	1 現存	1 産業	11 碑・像等	山田文右衛門翁顕彰之碑	本町 (門別稲荷神社内)	昭和47	1972	昆布の投石事業や、門別稲荷神社社殿の造営など門別町の開発に尽力した沙流場所請負人山田文右衛門をたたえるために、門別町の百年記念に建立されたもの。	百年記念写真誌	
70	3 門別町	1 有形	1 現存	1 産業	11 碑・像等	互野留作翁の碑	富川 (三吉神社境内)	明治38	1905	北海道奥地における水稲の先駆者といわれ、日高における水稲の始祖である互野留作の功績をたたえるために建立されたもの。	百年記念写真誌	
71	3 門別町	1 有形	1 現存	1 産業	11 碑・像等	山田文右衛門と昆布投石の浜の碑	本町 (稲荷神社前)	昭和47	1972	沙流場所請負人山田文右衛門が昆布増殖を図って投石を行った中心地に、門別町百年を記念して立てたもの。	百年記念写真誌	
72	3 門別町	1 有形	1 現存	1 産業	11 碑・像等	日高水稲発祥の地の碑	平賀 (平賀会館前)	昭和47	1972	明治7(1874)年に互野留作が日高ではじめて水田を開き稲作を試みた地に、門別町百年を記念して立てたもの。	百年記念写真誌	
73	3 門別町	1 有形	1 現存	1 産業	11 碑・像等	仙台藩移住の地の碑	富川	昭和47	1972	明治2(1869)に政府の命により佐留太を分領支配することになった仙台藩から、明治3(1870)に長五郎清篤を隊長とする146名が移住した地に、門別町百年を記念した立てたもの。	百年記念写真誌	
74	3 門別町	1 有形	1 現存	1 産業	11 碑・像等	彦根藩移住の地の碑	豊郷	昭和47	1972	明治2(1869)に政府の命により佐留太を分領支配することになった彦根藩から明治4(1871)に斎藤正寿を隊長とする141名が移住したが支配地返上により帰国あるいは離散した地に、門別町百年を記念した立てたもの。	百年記念写真誌	
75	3 門別町	1 有形	1 現存	2 宗教	11 碑・像等	口緑廓象信士墓碑	旭町 (本町墓地)	文化11	1814	門別町の墓地、通称法華寺沢入口の右丘地にある墓碑の一つで、文化初年から末年(1804から1818)にかけて異常流行した水腫に罹病した会所の勤番者のものと推測される。	新門別町史下巻	
76	3 門別町	1 有形	1 現存	2 宗教	11 碑・像等	徳本善願信士墓碑	旭町 (本町墓地)	文化元	1804	門別町の墓地、通称法華寺沢入口の右丘地にある墓碑の一つで、文化初年から末年(1804から1818)にかけて異常流行した水腫に罹病した会所の勤番者のものと推測される。	新門別町史下巻	
77	3 門別町	1 有形	1 現存	2 宗教	11 碑・像等	佐一木勤兵衛墓碑	旭町 (本町墓地)	慶應2	1866	門別町の墓地、通称法華寺沢入口の右丘地にある墓碑の一つ。	新門別町史下巻	
78	3 門別町	1 有形	1 現存	2 宗教	11 碑・像等	三界萬龍碑	旭町 (本町墓地)	寛政11～ 文化4	1799～ 1807	門別町の墓地、通称法華寺沢入口の右丘地にある墓碑の一つで、最も古く、蝦夷地警備にあたった南部藩士の供養碑と思われる。	新門別町史下巻	

番号	コード						名称	所在地	年代		由緒由来の概要	資料名				
	町名	有形・無形	現存・非現存	大分類	中分類	和暦			西暦							
79	3	門別町	1	有形	1	現存	2	宗教	11	碑・像等	隋雲院順月口口居士墓碑	旭町 (本町墓地)	元治元	1864	門別町の墓地、通称法華寺沢入口の右丘地にある墓碑の一つ。	新門別町史下巻
80	3	門別町	1	有形	1	現存	2	宗教	11	碑・像等	前山田仁右衛門墓碑	旭町 (本町墓地)	元治2	1865	門別町の墓地、通称法華寺沢入口の右丘地にある墓碑の一つで、八代文右衛門の庶子文吉のもの。	新門別町史下巻
81	3	門別町	1	有形	1	現存	5	伝統	12	史跡等	アツベツチャシ跡	正和	寛文9	1669	門別町と新冠町の境界を流れる厚別川の河口から約20km上流の右岸に位置し、日高管内では珍しい丘頂式で、標高約120mの頂部に塚が設けられている。 シベチャリ(静内町)のシャクシャインと敵対し、戦いに敗れたハエ(門別町豊郷)のオニビシの姉のチャシで、その後シャクシャインに焼き払われたといわれる 平成9(1997)に「シベチャリ川流域チャシ跡群」とともに、国の史跡に指定された。	新門別町史中巻、新諸国物語わがまち再発見北海道212文化編、管内概要ひだか
82	3	門別町	1	有形	1	現存	5	伝統	12	史跡等	門別富仁家盛土墳墓群	富川	—	—	門別町富川の沙流川河口から約4km上流の左岸台地に位置する。 縄文文化終末期より続縄文期に至る時期の墳墓遺跡。先住民族の葬制を知りえる遺跡として貴重。墓穴は、長径1m前後、埋葬方法は跪坐葬で、土器、石器、装身具を副葬。昭和38(1963)に北海道指定史跡となる。	新門別町史中巻、門別町開基120年記念誌、新諸国物語わがまち再発見北海道212文化編
83	3	門別町	1	有形	1	現存	3	生活	14	その他建築物	沼田旅館	富川	明治末～ 大正初期 (創建)	明治末～ 大正初期	馬宿から旅館の経営を始める。大正に建てられた物は、切妻造り平入りむくり破風の玄関となっており、現在の建物は、昭和32(1957)に建替えたもの。	新門別町史上巻
84	3	門別町	1	有形	1	現存	3	生活	14	その他建築物	門別郵便局	門別	明治26 (創建)	1893	初代局長の岩根静一が局舎兼住宅として建築。外回りが下見板張りで、梯子で階上のデッキに上がれた。局舎正面は洋風上げ下げ窓で、屋根は棟飾りが2つついた四方屋根となっていた。 昭和11(1936)に新築、アールデコ調の円形破風を冠した斬新な意匠で、これを真似て建てられた郵便局もあった。	新門別町史上巻
85	3	門別町	1	有形	2	非現存	1	産業	15	人物	互野留作	平賀	不明	不明	明治7(1874)に平賀に移住し、明治8(1875)に日高で初めて水稲の試作に着手し、失敗を重ねつつ、掛水を温める方法を出して稲作を成功させた。	門別町町政要覧資料編、百年記念写真誌、日高のれきし
86	3	門別町	1	有形	2	非現存	1	産業	15	人物	原新介	—	不明	不明	寛政11(1798)、幕府は蝦夷地警備を強化するため、津軽藩500名強を沙流以東、南部藩500名を浦河以東の警備に当てたが、このとき農業に従事しながら警備にあたったのが八王子千人同心で、新介(新助)はその同心頭、原半左衛門の弟で、寛政12(1800)に沙流を開墾した。	門別町町政要覧資料編、我が祖山田文右衛門
88	3	門別町	1	有形	2	非現存	1	産業	15	人物	飯田信三	門別	弘化2～ 大正3	1845～ 1914	滋賀県坂田郡生まれで、万延元(1860)に彦根藩に仕え、天誅組の変、戊辰の役などに従軍した。明治4(1871)に彦根藩の北海道開拓農夫頭となって、門別町に渡来し、明治9(1875)には駅運取扱となった。 明治9(1876)には馬20頭を購入して繁殖を図り、また、明治43(1910)には、下総御料牧場より牝馬6頭、新冠御料牧場より種牡馬1頭を購入し、馬匹の改良を図り、産馬組合を組織するなどして日高の馬産に貢献した。 そのほか、明治14(1881)には酒造業を開始したり、明治20(1887)には帆船数隻を購入して函館との海路を開いたり、明治37(1904)に門別本町で回酒店を経営したり、漁業組合を組織して頭取となるなど日高の開発に資した。 明治37(1904)には道会議員となる。大正3(1914)、69歳で没する。	日高開発功労者事蹟録(上)、新門別町史中巻
89	3	門別町	1	有形	2	非現存	1	産業	15	人物	岩根静一	波恵	不明	不明	明治15(1882)、波恵に民股としては道内で初めて、850町歩の牧場を開き、馬325頭、牛41頭を放牧し、馬産の改良、増殖を図った。明治26(1893)～大正4(1915)、門別郵便局の初代局長となる。船山馨の小説「お登勢」に登場する人物のモデルとなったといわれる。	新門別町史中巻、エドウィン・ダンと新冠牧馬場の歴史への誘い
90	3	門別町	1	有形	2	非現存	5	伝統	15	人物	オニビシ	—	不明	不明	シュウムンクル(西方人)で豊郷の長。メナシクル(東邦人)の長カモクタイン、シャクシャインと対立し、承応2(1653)カモクタインを討ったが、寛文8(1668)シャクシャインにより謀殺される。	門別町開基120年記念誌、新門別町史中巻
91	3	門別町	1	有形	2	非現存	5	伝統	15	人物	チクナシ	—	不明	不明	シュウムンクル(西方人)豊郷の副長。オニビシの姉とともにシャクシャインと戦う。	門別町開基120年記念誌
92	3	門別町	1	有形	2	非現存	5	伝統	15	人物	鍋沢元蔵(モトアレク)	—	明治18～ 昭和42	1885～ 1967	門別町の偉大なユウカラ伝承者。独学で日本語、仮名漢字を学び、生存中に貴重なユウカラを大学ノート40冊に筆録。82歳でなくなる。	新門別町史中巻、百年記念写真誌
93	3	門別町	2	無形	1	現存	5	伝統	17	祭事・芸能	門別ウタリ文化保存会	—	昭和58	1983	アイヌ民族の伝統的文化の保存伝承を謀るため、北海道ウタリ協会門別支部が設立。 アイヌ民族舞踊教室、アイヌ語教室、シャクシャイン祭などを通して祭礼、狩猟、生活用品、言語、舞踏などの保存伝承に取り組む。 昭和59(1984)に国の重要無形民族文化財に指定された「アイヌ古式舞踊」の保存団体として、平成6(1994)に指定され、その伝承を行っている。	新門別町史中巻、浦河町立郷土博物館資料
94	3	門別町	2	無形	1	現存	5	伝統	17	祭事・芸能	門別町富川郷土芸能保存会	—	昭和51	1976	富川神社の獅子舞衣装は大正14(1925)に購入したもので道内でも数少ないものとなっているが、伝統のある踊りを知る人も少なくなったため、地元有志により発足させ、町内の古老からアドバイスを受けるなどして活動している。	新門別町史中巻
95	3	門別町	1	有形	1	現存	5	伝統	18	工芸・美術	安宅の関(絵馬)	本町 (門別稲荷神社)	慶応元	1865	町有形文化財。松村精之助、伊久間市之助が寄進した絵馬で、勳進帳の場面が描かれている。	新門別町史中巻、我が祖山田文右衛門
96	3	門別町	1	有形	1	現存	5	伝統	18	工芸・美術	宇賀殿額	本町 (門別稲荷神社)	不明	不明	町形文化財。宇賀殿とは伊勢神宮外宮祭神。明治4(1871)に彦根藩の北海道開拓農夫頭として門別町に渡来した飯田信三が寄進した額。	新門別町史中巻、日高開発功労者事蹟録(上)
97	3	門別町	1	有形	1	現存	5	伝統	18	工芸・美術	大太鼓	本町 (門別稲荷神社)	嘉永6	1853	町有形文化財。沙流場所請負人10代山田文右衛門が寄贈した。	新門別町史中巻、中巻
98	3	門別町	1	有形	1	現存	5	伝統	18	工芸・美術	神后竜神より宝玉をうくる絵馬	本町 (門別稲荷神社)	不明	不明	町有形文化財。沙流場所請負人山田文右衛門と山田寿兵衛が願主となっている絵馬。	新門別町史中巻、百年記念写真誌、我が祖山田文右衛門

番号	コード						名称	所在地	年代		由緒由来の概要	資料名				
	町名	有形・無形	現存・非現存	大分類	中分類	和暦			西暦							
99	3	門別町	1	有形	1	現存	5	伝統	18	工芸・美術	鉄製槍先(かぶら型)二本をつけたる額	本町(門別稻荷神社)	享和3	1803	有形文化財。幕府御使番大河内善兵衛に随行し、近藤重蔵とともに東蝦夷地を探検した比企可満と武州八王子千子同心の原新介が寄進した額で、沙流場所にと着した八王子隊員の常駐地を解く鍵といわれている。	新門別町史中巻、百年記念写真誌、我が祖山田文右衛門
100	3	門別町	1	有形	1	現存	5	伝統	18	工芸・美術	鳥居画	本町(門別稻荷神社)	不明	不明	有形文化財。大工藤兵衛が寄贈した額。	新門別町史中巻
101	3	門別町	1	有形	1	現存	5	伝統	18	工芸・美術	俳句献額	本町(門別稻荷神社)	明治36	1903	有形文化財。寒月堂蕭風が寄進した額。	新門別町史中巻
102	3	門別町	1	有形	1	現存	5	伝統	18	工芸・美術	俳句献額	本町(門別稻荷神社)	嘉永元?	1848?	有形文化財。石田屋治三郎が寄進したもの。	新門別町史中巻
103	3	門別町	1	有形	1	現存	5	伝統	18	工芸・美術	帆船桂丸絵馬	本町(門別稻荷神社)	不明	不明	有形文化財。山田屋手船船頭順次郎が寄進した絵馬。桂丸は、24反帆、8人乗りで、厚岸国泰寺所蔵の日記に船名が出ているといわれる。	新門別町史上巻、中巻、我が祖山田文右衛門
104	3	門別町	1	有形	1	現存	5	伝統	18	工芸・美術	帆船豊通丸絵馬	本町(門別稻荷神社)	不明	不明	有形文化財。山田文右衛門ゆかりの絵馬。豊通丸は、20反帆の文右衛門の手船であった。	新門別町史上巻、中巻、我が祖山田文右衛門
105	3	門別町	1	有形	1	現存	5	伝統	18	工芸・美術	奉納御宝前	本町(門別稻荷神社)	安政2	1855	有形文化財。陽山(山田文右衛門号)が寄進した額で、直筆の二つの句が書かれている。	新門別町史上巻、中巻、百年記念写真誌
106	3	門別町	1	有形	1	現存	5	伝統	18	工芸・美術	義経、弁慶、五条橋(絵馬)	本町(門別稻荷神社)	不明	不明	有形文化財。寄進者は不明であるが沙流場所請負人山田文右衛門と推定され、義経と弁慶の五条橋での戦いの様子が描かれている額。	新門別町史中巻、百年記念写真誌、我が祖山田文右衛門
107	3	門別町	1	有形	1	現存	4	教育	99	その他	門別町図書館郷土資料館	富川東	平成5	1993	沙流場所の模型、大正時代の民家など門別町の礎を築いた先人の業績の展示のほか、現在の沙流川流域のパノラマ模型などを設置しており、特に、北海道で初めて確認されたメカジキの送り場の遺構を復元した模型があり、メカジキ漁法とアイヌ文化についての意義について展示している。図書館と併設。	日高支庁HP、門別町図書館郷土資料館資料、胆振・日高地区の博物館郷土館めぐり
109	3	門別町	2	無形	1	現存	4	教育	99	その他	門別町郷土史研究会	—	昭和35	1960	豊郷郷土史研究会を設立し、古老の話の聞き取りと資料集を始め、後に旧豊郷中学校を郷土室に利用して収集品を展示。昭和30(1955)、富川中学校の郷土研究部が日高管内全域に渡って遺跡分布調査などを行っていたが、昭和35(1960)、道文化保護委員会の指導助言によって当会が設立され、遺跡の発掘、アイヌの歌謡、祝詞等の調査、神社仏閣の調査などを行っている。	新門別町史中巻
108	3	門別町	1	有形	2	非現存	1	産業	99	その他	沙流会所	本町	寛政元	1789	天明6(1786)頃、沙流場所の場所請負人であった阿部屋伝吉が富川に運上屋を開設したが、寛政11(1799)に沙流場所が幕府の直捌きとなった際に、運上屋を会所と改められた。直轄当時で比企市郎右衛門が詰合の時に建てられた会所の建物はその焼失し、文化2(1805)に門別本町に新築、移転された。通行屋を兼ねた旅館が並び、文化5(1808)には下宿所、大工などの作事小屋、鍛冶小屋などが建てられた。	百年記念写真誌、平取町史、新門別町史上巻、中巻
110	3	門別町	2	無形	2	非現存	1	産業	99	その他	沙流場所	沙流郡一帯	不明	不明	場所制度とは、蝦夷地では米作がなく石高制をもって家臣の給料を定めることができなかったため、松前藩が交易その他による収益を見込んで各地を場所と区分し、これを知行として家臣に配分する方法で、当初「オムシャ」といわれる方法でアイヌの人々と交易を行っていたが、その後、場所請負制がとられ、請負人や支配人によって運営されるようになったが、アイヌの人々を酷使し、また、不当な交易をすることが多かったといわれる。温暖で天然の宝庫である沙流川流域を交易の根拠地として選ばれ、慶長の初めに開設されたと考えられる。初めて記録に現れるのは、シャクシャインの戦い後に調査に来た津軽藩隠密の報告書で、知行主は小林甚五兵衛でその後も小林家の世襲として代々引き継がれる。享保5(1720)には運上屋が置かれ、佐藤次兵衛が請負人となった。天明6(1786)には松前の阿部屋伝吉が請け負ったが、寛政11(1799)には幕府による直捌きとなり、請負制度が廃止された。しかし、文政4(1822)には、松前藩に復讐され、文政5(1822)から山田文衛門が請負人となった。	日高町史、平取町史